世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

認知行動療法研究誌2号：表紙,目次,投稿規定,編集後記,奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学認知行動療法研究所 公開日: 2021-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/1541

武蔵野大学
認知行動療法研究誌

【特集：トラウマ性疾患に対する認知行動療法の近年の動向】

■特集にあたって

藤森和美

■持続エクスポージャー法実践の展開と課題

小西聖子

■遷延性悲嘆症の概念と近年の治療の動向

中島聡美

■原著

日本での複雑性悲嘆の社会的認知と効果的な支援提供方法に関する予備的研究

田中英三郎、籔比加里

■総説

Mindfulness and cognitive behavioral therapy for social anxiety（4 回プログラム）の開発とその展望

野田昇太、城月健太郎、中尾睦宏

学会便り／書評／活動報告／投稿規定／編集後記

2020 年　第 2 号

武蔵野大学認知行動療法研究所

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World

Musashino University

武蔵野大学認知行動療法研究誌　第2号
目　次

特集　トラウマ性疾患に対する認知行動療法の近年の動向

特集にあたって …… 藤森和美… 1

持続エクスポージャー法実践の展開と課題 …… 小西聖子… 3

遷延性悲嘆症の概念と近年の治療の動向 …… 中島聡美… 10

原著：日本での複雑性悲嘆の社会的認知と効果的な支援提供方法に関する予備的研究
…… 田中英三郎、籔比加里… 21

総説：Mindfulness and cognitive behavioral therapy for social anxiety（4 回プログラム）の開発とその展望 …… 野田昇太、城月健太郎、中尾睦宏… 36

学会便り：第 36 回 International Society for Traumatic Stress Studies（virtual conference）報告　中山千秋… 47
第 19 回日本トラウマティック・ストレス学会 …… 山本このみ… 49

書評：『学校トラウマの実際と対応　児童・生徒への支援と理解』…… 辻惠介… 51

活動報告 …… 52

投稿規定 …… 54

編集後記 …… 57

2021年度「武蔵野大学認知行動療法研究所」投稿規定

本誌は他誌に発表されていない原稿のみを掲載します。投稿者は、武蔵野大学認知行動療法研究所研究員、武蔵野大学認知行動療法研究所客員研究員、名誉教授、人間学専攻後期博士課程院生、本学非常勤講師に限ります。これらの者が筆頭著者または共著者に含まれている場合、投稿を受け付けます。他誌に投稿中、印刷中または掲載済みの論文と主要部分が重複した論文は受け付けません。この点に触れる恐れのある場合は、重複すると思われる論文のコピー１部を投稿論文とともにお送り下さい。ただし、研究報告書、学会発表ならびに抄録での発表は除外対象としません。

Ⅰ　投稿論文・原稿の種類

	①原著	②資料	③総説	④症例報告	⑤実践報告
字数	10,000字程度			8,000 字程度	
邦文抄録・キーワード	400 字以内・５個以内			200 字以内・５個以内	
英文抄録・キーワード	250 ワード以内・５個以内				
倫理的配慮の記載	要			要	

Ⅱ　提出に関する規定

1. ワードプロセッサー使用の場合、１頁を文字数1,200（横40 × 縦30で印字されたA4サイズの用紙）にして下さい。
2. 原稿には表題、氏名，所属とその住所を記載して下さい。Ⅰ①②③には、英文で表題、氏名、所属とその住所も記載して下さい。これらに加え、抄録、倫理的配慮は規定枚数に含みません。
3. 図・表・写真は各々につき400字として規定枚数に含みます。写真はカラーではなく白黒にし、鮮明なネガまたは鮮明にプリントアウトされたものをお送り下さい。または電子ファイルにて添付して下さい。なお、原稿、写真、ネガについては返却しませんのでご了承下さい。
4. 投稿の際は（本規定末尾参照）より「投稿者カード」をダウンロードし、ご記入の上、同封ください。
5. 「原著」は、武蔵野大学認知行動療法研究所（以下研究所）の主旨にふさわしい主題について著者自身の研究によって得られた洞察に基づいて独自の考察をした論文とします。原則として研究の意義、方法、結果、考察を含みます。
6. 「総説」は、研究所の主旨にふさわしい主題について関連する学術論文、書籍等を網羅的に検討し、新しい知見を提示した論文とします。論文の収集並びに検討方法が恣意的ではなく体系的であること、その方法論が示されていること、先行する総説には見られない知見が含まれることが必要となります。

7.「資料」は、研究所の主旨にふさわしい独自性の高い資料等とします。
8.「症例報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる臨床例について報告して下さい。
9.「実践報告」は、認知行動療法および関連領域に関わる実践について報告して下さい。

Ⅲ　倫理・利益相反

1. 研究論文については、方法論の中に「倫理的手続き」という項目を設けて下さい。その項目の中に著者所属機関の倫理委員会の承認の有無、対象者の同意を得た方法などを明記して下さい。資料の二次的使用については著作権者の許諾、その他必要と思われる事項を記載して下さい。助成・寄付を受けての研究等については、その旨を記載して下さい。また症例記述については匿名性について最大限にご配慮下さい。症例報告については、対象者の同意書コピーの提出を求めることがあります。疫学研究、医学的臨床研究、ゲノム研究については、該当する倫理指針を参照して下さい。
2.「原著」「資料」「総説」「症例報告」「実践報告」「特集」の著者は、武蔵野大学で定める利益相反（COI）自己申告書を記入し、原稿とともに提出して下さい。

Ⅳ　共著者

共著者の投稿同意については、「共著者承諾書」に、必要事項を記載の上、共著者の自筆署名を付けて下さい。

Ⅴ　用語

外国の人名・地名は原語表記とし。薬品・試薬名は一般名の英語表記を用いて下さい。その他の学術用語、専門用語は、日本語表記を用い、必要な場合は初出箇所に原語及び略語を（ ）で付記して下さい。再出箇所では略語表記も可能です。

Ⅵ　文献

1. 文献引用は必要最小限のもののみをあげて下さい。なお、文献引用欄は規定枚数に含みます。
2. 各文献は著者名のアルファベット順に番号を付し（同一著者の場合は，発表順）、本文中にその番号で引用し、本文中の引用は番号を上付きにして下さい。 例）小西 3) によると
3. 欧文雑誌名の略称は Index Medicus に従い、（Am.J.Psychiatry のように省略のピリオドをつける）、邦文雑誌は公式の略称を用いて下さい。
4. 著者氏名は３名以下の場合は全員、４名以上の場合は３人目まで書き、後は et al.（または、ほか）として下さい。
5. 文献の書き方は、以下を参照して下さい。

書式	記載例
著者氏名：論文題名。 雑誌名、巻；起頁 － 終頁、 西暦年号．	中島聡美，伊藤正哉，村上典子ほか：災害による死別の遺族の悲嘆に対する心理的介入．トラウマティック・ストレス，10；71-76，2012.
	Shirotsuki, K., Uehara, S., Adachi, S., et al.: Internet-based cognitive behavior therapy for stress and anxiety among young Japanese adults: a preliminary study. Psych, 1; 353-363, 2019.
単行本 著者（編者，監修者）名： 書名．発行所名，発行地， 起頁 － 終頁，西暦年号． （翻訳も同じ書式）	小西聖子　編著：犯罪被害者のメンタルヘルス．誠信書房，東京，2008.
	American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders: DSM-5 -5th ed.. American Psychiatric Association, Arlington, 2013.（染谷俊幸，神庭重信，尾崎紀夫ほか訳：DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル．医学書院，東京，2014.）
単行本の中の論文 著者氏名：論文題名． 著者（編者，監修者）名： 書名．発行所名，発行地， 起頁 － 終頁，西暦年号．	中島聡美，白井明美，小西聖子：災害による喪失と死別への心理的ケア・治療．加藤寛ほか編：災害時のメンタルヘルス．医学書院，東京，pp 113-120，2016.
	Cahil, S.P., Rothbaum, B.O., Resick, P.A., et al.; Cognitive-behavioral therapy for adults. In Foa, E.B., Keane, T.M., Friedman, M.J. et al., eds.: Effective treatments for PTSD: practice guidelines from the International Society for Traumatic Stress Studies. Guilford Press, New York, 139-222, 2009.

Ⅶ　その他

1. 原稿の採否は編集委員会で査読の上決定します。査読は投稿者の氏名および所属を伏せて行います。また、編集方針により加筆削除等を依頼することがあります。
2. 著者校正は原則として一度のみ行います。掲載された論文には、掲載誌１部と、別刷 10 部を進呈します。
3. 原稿１部ならびに原稿を保存した電子ファイルを武蔵野大学認知行動療法研究にメールでお送り下さい。なお必ずお手元にコピーを保存して下さい。（メールアドレス：cbtinst@musasino-u.ac.jp）
4. 投稿規定は改訂されることがあります。最新の投稿規定もしくは改訂の情報の有無を、必ず研究所ホームページでご確認下さい。
5. 研究成果が「武蔵野大学　認知行動療法研究所紀要」に掲載された場合、同研究成果は武蔵野大学学術機関リポジトリへも登録され、インターネット上に公開されます。そのため、投稿にあたっては、武蔵野大学学術機関リポジトリ規定に基づき、著作権処理を完了しておいてください。

編集後記

編集委員
今野理恵子、中島聡美、牧野みゆき（五十音順）

武蔵野大学認知行動療法研究誌第２巻が無事発刊できたことに安堵しています。第２巻では、原著論文や総説の応募もありより充実した誌面になりました。投稿くださった先生方、査読等ご協力いただいた先生には改めて感謝申し上げます。今年は、COVID19 のパンデミックという事態に見舞われ、武蔵野大学もそうでしたが心理臨床の現場にも大きな変化がありました。マスク越し、アクリル板越しのカウンセリングに違和感を感じた人も多かったのではと思います。一方、遠隔心理療法という新しいツールを用いた治療など新たな試みが発展した年でもありました。危機は新たな発展の時といいます。認知行動療法の新たな進展を私たちも研究していきたいと思います。(S.N)

1 年前は、COVID-19 の猛威がここまでとはだれも予想していませんでした。認知行動療法研究所も閉室を余儀なくされました。3 カ月半の閉室を経て、セラピスト、クライエント、使用する面接室等の感染防止対策を徹底し、再開した矢先に、東京発着の移動に懸念が出て、地方からのクライエントの治療はさらに延期されてしまいました。まだまだ予断を許さない状況ですが、徐々に CBT を実施できるようになっています。多くのクライエントに対して CBT を行える日が早く来るようにと願っています。(R.K)

本年度より編集事務をさせていただいております。ご執筆、ご査読いただきました先生方、本当にありがとうございました。若手の先生からベテランの先生まで、研究や臨床のフロントラインに立たれている先生方の知見や社会実装のプロセスを拝見し大変勉強させていただきました。変化の日々で限られた生活が続いておりますが、みなさまどうかお身体にお気をつけください。(M.M)

武蔵野大学認知行動療法研究誌　第２号

2021 年 3 月　印刷・発行

発　行　武蔵野大学認知行動療法研究所
住　所　東京都江東区有明 3-3-3
印　刷　株式会社ワコー

Journal of Musashino University of Cognitive Behavioral Therapy and Research

Vol. 2 Mar. 2020

CONTENTS

【Special: feature Recent Trends in Cognitive Behavioral Therapy for Traumatic Disorders】

■ The purpose of this special feature Kazumi Fujimori

■ The development and challenges of Prolonged Exposure practice in Musashino Univversity
Takako Konishi

■ Recent Trends in the Concept and Treatment of Prolonged Grief Disorder
Satomi Nakajima

■ **Original Article**

Social recognition of complicated grief and adequate provision of supports to the bereaved in Japan: apreliminary survey
Eizaburo Tanaka, Hikari Yabu

■ **Review**

The four-session program of mindfulness and cognitive behavioral therapy for social anxiety
Shota Noda, Kentaro Shirotsuki, Mutsuhiro Nakao

Conference report/Book review/ Research progress report/ Submission guideline/ Editorial note

Published annually by
Cognitive Behavioral Therapy and Research Instifutc
Musashino University